



2026年4月10日

各位

会社名 株式会社エルテス
 代表者名 代表取締役社長 菅原 貴弘
 (コード番号: 3967 東証グロース)
 問合せ先 取締役経営戦略本部長 伊藤 豊
 (TEL. 03-6550-9280)

通期連結業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2026年4月10日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績動向等を踏まえ、2025年5月29日に公表した2026年2月期（2025年3月1日～2026年2月28日）の業績予想を修正することを決定いたしました。

また、当社は、2026年2月期第4四半期（2025年12月1日～2026年2月28日）において、特別損失を計上する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

1. 2026年2月期連結業績予想数値の修正（2025年3月1日～2026年2月28日）

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	8,200	750	380	340	170	28.18
今回修正予想（B）	8,960	930	430	350	△170	△27.72
増減額（B-A）	760	180	50	10	△340	—
増減率（％）	9.3	24.0	13.2	2.9	—	—
（参考）前期通期連結実績 （2025年2月期）	7,317	608	93	68	△860	△142.61

（業績予想の修正理由）

2026年2月期連結業績につきましては、売上高、EBITDA、営業利益、経常利益が前回発表予想を上回る見通しとなりました。一方で、親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失の計上により、予想を下回る見込みです。

第3四半期決算（2026年1月14日公表）においてご説明している通り、デジタルリスク事業・AIセキュリティ事業・スマートシティ事業のセグメント業績は計画を上回って推移しており、第4四半期以降、全社費用の適正化推進と並行して、コア事業と位置づけたデジタルリスク事業への成長投資を業績予想の範囲内において前倒しで実施しております。第3四半期までに営業損失（△257百万円）を計上していたDX推進事業においては、第4四半期に大型取引が成約し、通期セグメント利益が黒字化する見込みです。これらの要因により、売上高は8,960百万円（前回予想比9.3%増）、EBITDAは930百万円（前回予想比24.0%増）、営業利益は430百万円（前回予想比13.2%増）、経常利益350百万円（前回予想比2.9%増）と、各項目で当初計画を上回る着地の見込みです。

一方で、以下に記載の特別損失計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は△170百万円（前回予想比340百万円減）となる見通しです。

なお、2026年2月期決算短信の開示は、4月14日16時を予定しており、後日決算説明動画およびFAQの開示を予定しております。

2. 特別損失の計上について

（1）連結決算

当社連結子会社の株式会社JAPANDXが保有するソフトウェア資産について、同社のカーブアウト検討に伴う今後

の事業計画の見直しにより減損処理を行い、2026年2月期第4四半期連結決算において、減損損失（201百万円）を特別損失として計上する見込みとなりました。また、AIセキュリティ事業の事業用資産であるソフトウェアおよびスマートシティ事業の固定資産の一部についても、減損損失（合計73百万円）を特別損失として計上する見込みです。

（2）個別決算

当社の保有する子会社株式について、上記のソフトウェア資産の減損処理等により実質価額が帳簿価額から著しく下落したことから減損処理を行い、2026年2月期第4四半期当社個別決算において、子会社株式評価損（366百万円）を特別損失として計上する見込みです。なお、当該子会社株式評価損につきましては、連結決算上では消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

（注）本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的だと判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上